



寺報 ともしび

金剛山大長寺

令和二年八月十二日発行

第十二号

尊ぶべき身命なり

任職 安藤 康哉

世情は、新型コロナウイルスが拡大しており、従来の人とのつながりに変化が起こっております。いわゆる「三密」を避け、ソーシャルディスタンスを保ちながら、仕事や学校・日常生活を送ることが常となっております。一方で、家族が入院しても、お見舞いにも行けず、場合によっては、言葉も交わすことなく御臨終の場を迎える状況も生じております。コロナ感染防止のためとはいえ、家族として、その場に立ち会うことができないのは、大変に辛いことでもあります。

感染が拡大する中、マスクを着用し人との距離を保つことは、必須のことではありますが、物理的な距離をおけばおくほど、家族や縁のある方々への想いは、尚一層、強くなってくるのではないのでしょうか？

科学万能、物質中心の世界から、こころや精神を重視する世界に転じる中、利他を重んじ、ともに生きていくという心持ちは、まさに仏教の「自利利他」の教えであります。曹洞宗・永平寺を開かれた道元禅師は「この一日の身命は尊ぶべき身命なり」と諭しております。コロナ禍こそゆえ、一日一日、かけがえのない身命を大事に生きて、今日一日の命に感謝をして、生きて参りたいものです。



4月の施食会供養はウイルス感染防止のため、僧侶と一部寺関係者で行い、檀信徒の方には時間をずらして参詣して頂きました

心と心のデイスタンス

院代 安藤嘉則

七月末頃から東京都をはじめ、全国の各地でこれまでの新型コロナウイルス感染症に感染した人が過去最高の人数となっており、その一方で政府は変わらず旅行キャンセルを続けるという、なんともし腑に落ちない昨今です。都心部で若者たちが感染し、それが世代を超えて広がっている傾向があり、電車やバスには怖くて乗れなくなつた方も多いことでしょう。酒場でお互い面と向かつて楽しい会話で時を過ごすという、当たり前な風景がなくなり、いわゆるソーシャル・デイスタンスが求められる時代です。お寺でも法事で座る

間隔も密接しないようにしております。

とところで日本人の家庭の心にある仏壇。それは家庭の心のよりどころであり、ご本尊もありますので、「家の中のお寺」としての意義があります。何十年も前になくなつた父母や祖父父母であつて、毎日手を合わせ、「おかあさん、おはようございます」と語りかけるとき、あるいはお孫さんが、「おばあちゃん、ぼく、今学期頑張つたよ」といつて通信簿をお仏壇にささげるとき、それぞれが先祖様に毎日出会っているといえるのではないのでしょうか。今も日々亡き人と出会い、その亡き人

が自分のバックボーンとして存在するというのは、人にとって大切な心の支えであります。

なにをやるにしても距離間が求められる時代ですが、それはあくまで物理的な距離で、2メートルとか物差しで測れるものです。確かに現代において意識しなければならぬ距離感ですが、人と人との心の距離感はずいぶん違います。昨年、千葉県の方である父親が十歳の娘さんを虐待して殺めてしまったという事件がありました。親が子を、子供が親にひどい事をするそんな事件が次々の報道されています。お互いに目の前で親子として存在している、それは親子とはいえないのではないのでしょうか。心と心は遙かに隔てられています。

昨年、七十三回忌の法事をいたしました。もちろん七十三回忌なる法事は普通はやりません。しかしその檀家様はこのようにその法事を依頼されたのです。

「和尚さん、今度親父の二十三回忌をお願いするが、併せて祖父の七十三回忌をお願いできないか。自分が小学校のときに亡くなつたおじいちゃん、本当にかわいがつてくれた。いろんなところ連れて行つてくれた。あのじいちゃんをどうしても供養したい。塔婆はオレの息子と娘で一本ずつ頼む」。八十過ぎのその方は本当におじいさんの供養を熱望されておりました。その方は毎朝仏壇であるいはお墓参りして手を合わせるとき、きつとそのじいちゃんと七十年以上心と心で対話をしてきたのでは、そんなことを思いました。

お仏壇やお墓は、時間を越え、空間を越えて、心と心で亡き人と対話する場なのではないのでしょうか。

特別志納者の紹介

曹洞宗が運営する大学

曹洞宗には、全国にいくつか運営に関わっている大学があります。

東京の「駒澤大学」。この卒業生には、元プロ野球選手の中畑清氏がおります。

また、東北・宮城県には「東北福祉大学」。この卒業生には、やはり元プロ野球選手の佐々木主浩氏や、世界で活躍されているプロゴルファーの松山秀樹選手がおります。

愛知県には、「愛知学院大学」。横浜の大本山總持寺に隣接しております「鶴見大学」。同大学は、歯学部が有名であり、病院も併設しております。

高校となりますと、北海道の駒澤大学付属苫小牧高校卒業生で大リーグで活躍している田中将大選手。東京の「世田谷学園」。柔道のオリンピック金メダリスト、吉田秀彦氏も卒業生であります。現在は、

副任職 安藤道隆

都内、有数の進学校であります。他にも、いくつかございりますが、これらの学校法人（大学・高校）には、曹洞宗より、それぞれの大学に理事長若しくは理事を派遣して運営に携わっております。

大長寺の院代である安藤嘉則師は、今年4月、曹洞宗の

ご逝去の方々と命日

関係大学である「駒沢女子大学」の学長に就任いたしました。また私の伯父は駒澤大学の総長を務めておりました。

さて、なぜ「曹洞宗」という宗派が、大学の運営に携わっているかと申しますと、それらの大学は、元来、曹洞宗の僧侶を育成・教育するために設立された学校であるからです。時代の変遷とともに、総合大学として成長し、現在に至っております。

新役員紹介

令和二年五月一日からお勤め頂く大長寺各役員の方々をご紹介します。

大長寺梅役員（任期四年、令和六年四月まで）

- 名誉総代 井上 泉
- 名誉総代 辻村 政雄
- 檀徒総代兼護持会会長 辻村 進
- 檀徒総代兼護持会副会長 井上 満
- 檀徒副総代兼護持会副会長 井上 準一郎
- 檀徒副総代兼護持会庶務兼寺報編集委員長 小野 敏晴
- 大長寺参与兼護持会会計 小林 秀樹
- 大長寺参与兼護持会会計 大津 稔
- 大長寺参与兼護持会会計 山神 裕

大長寺梅花講役員

- 講長 安藤 康哉
- 副講長 安藤 道隆
- 理事長 諸星 末子
- 副理事長 小野美佐子
- 会計 山崎 武子
（榎本・地区委員兼任）
- 地区委員 井上 幹枝
（上島）
- 地区委員 石井 鈴恵
（下島）
- 地区委員 井上 幸枝
（中家村）

曹洞宗大長寺婦人会

- 会長 山室みゆき
- 副会長 中村 道子
- 会計 小野喜代子
- 讚仏歌 小玉まゆみ
- 監査 高橋キヨ子

鍵和田令子

地区名	世話人兼 護持会理事	婦人会 地区委員
上島一	井上 健二	
上島二	井上 清	
上島三	小林 秀樹	井上 早苗
上島四	井上 浩一	
上島五	北村 孝雄	
上島六	大津 昭雄	高橋 澄子
上島七	辻村 昌憲	
河原町一	山口 保治	山口 春香
河原町二	室 哲夫	山室みゆき
榎本一	石井 吉衛	大橋 晴美
榎本二	竹内 幸治	
榎本三	田口 茂雄	
榎本四	高木 博明	石井 清美
中家村一	渡辺 佳子	佐藤 桂子
中家村二	小野 信義	小野 寿満子
中家村三	井上 淳一	小野 祥子
中家村四	小野 捷司	辻村 則子
中家村五	小野 稔	小野美佐子
下島一	井上 忠	
下島二	井上 邦武	
下島三	井上 義文	辻村 貴子
下島四	山口 欣千	
酒田一	野口 弘	
酒田二	小宮 辰江	
松田一	大島喜美子	
松田二	辻村 進一	

編集後記

●コロナが人を分断していません、家族であっても親しい人であっても同じです。物理的な距離で隔離されるから、今生の別れでも悔やみきれません。

●大長寺の施食会は、少人数で行い、時ずらして檀信徒の方に参詣頂きました。お寺の諸役員任命式もこの時に行われるのですが今年省略されました【上表参照】

●経済活動と生活は切り離せませんが、心と心の絆もまた離せません。騒ぎから半年経過した今、お盆の盂蘭盆会供養ほか諸行事が予定されます。今こそご先祖を家に迎えて心ゆくまで感謝の念を伝える時ではないでしょうか。

●我家の盆行事、全員集合とはいかないまでも在家家族だけでもと思っています。

●真夏日に向かい檀信徒皆様もご自愛されますよう祈念致します。